

様式 3

教員資格及び教育内容等の自己評価書様式

【自己評価1-1】専任教員の配置状況

学部・学科等の名称	専任教員数								非常勤教員	専任教員一人あたりの在籍学生数	備考
	教授	准教授	講師	助教	計	基準数	うち理学療法士又は作業療法士数	助手			
作業療法士科	人	人	人	人	人	6人	6人	人	52人	17人	

【自己評価1-2】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	理学療法士又は作業療法士である専任教員の配置人数が適正であり、かつ関連領域を教授できる医師等の専門家が配置されている。	3
	理学療法士又は作業療法士である専任教員の配置人数が適正である。	2
	理学療法士又は作業療法士である専任教員の人数が適正でない。	1

【自己評価1-3】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	全ての養成施設指導ガイドラインの教育内容（講義）を専任教員か、専任教員と同等以上の知識を有する教員が担当している。	4
	9割以上の養成施設指導ガイドラインの教育内容（講義）を専任教員か、専任教員と同等以上の知識を有する教員が担当している。	3
	8割以上の養成施設指導ガイドラインの教育内容（講義）を専任教員か、専任教員と同等以上の知識を有する教員が担当している。	2
	上記以外である。	1

【自己評価1-4】 当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
	専任教員（理学療法士又は作業療法士）は、全員が臨床に携わることで臨床能力の向上に努めている。	3
○	専任教員（理学療法士又は作業療法士）は、一部が臨床に携わることで臨床能力の向上に努めている。	2
	専任教員（理学療法士又は作業療法士）は、臨床に携わることで臨床能力の向上に努めていない。	1

【自己評価2-1】 養成施設指導ガイドラインとの連動状況

分野（基礎・専門 基礎・専門）	指定規則 教育内容	担当授業 科目名	担当コマ数	担当教員	
				氏名	職名 (専任・兼任)
基礎分野	科学的思考の基盤	歴史学	15	甘利弘樹	兼任
		哲学	15	黒川勲	兼任
	人間と生活	教育学	15	山崎清男	兼任
		統計学	15	馬場清	兼任
		物理学	15	日隈武治、他	専任・兼任
		英語	15	御手洗靖	兼任
		保健体育	15	松田史朗	兼任
	社会の理解	人間関係論	15	佐藤浩二	兼任
専門基礎 分野	人体の構造と機能及び心身の発達	解剖学Ⅰ	15	矢野高正、他	専任
		解剖学Ⅱ	15	首藤小春、他	専任
		解剖学Ⅲ	30	日隈武治、他	専任
		解剖学Ⅳ	30	矢野高正、他	専任
		生理学Ⅰ	15	定金香里、他	専任・兼任
		生理学Ⅱ	15	定金香里、他	専任・兼任
		生理学演習	15	後藤英子、他	専任
		基礎運動学	15	日隈武治	専任
		運動機能構造学	15	日隈武治	専任
		人間発達学	15	田中洋	兼任
	疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進	臨床心理学	15	古賀精二	兼任
		病理学概論	15	泥谷直樹、他	兼任
		公衆衛生学	15	楠正寛、他	兼任
		地域医療概論	15	首藤典利、他	兼任
		臨床医学Ⅰ	8	李康生	兼任
		臨床医学Ⅱ	8	桑原宏	兼任
		内科学Ⅰ	15	牧野直樹、他	兼任

専門基礎分野	疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進	内科学Ⅱ	15	立川洋一	兼任
		整形外科Ⅰ	15	七森和久	兼任
		整形外科Ⅱ	15	七森和久	兼任
		神経内科学	15	井野邊純一、他	兼任
		精神医学	15	宇都宮和則	兼任
		小児科学	15	内山伸一、他	兼任
	保健医療福祉とリハビリテーションの概念	社会福祉学	8	四ツ谷年晴	兼任
		リハビリテーション概論	8	武居光雄	兼任
		地域リハビリテーション学	15	佐藤孝臣	兼任
		地域リハビリテーション演習	8	吉岡恭介	専任
専門分野	基礎作業療法学	作業療法概論	15	後藤英子	専任
		基礎作業学Ⅰ（実技）	15	首藤小春、他	専任
		基礎作業学Ⅱ（実技）	15	佐藤翼、他	専任
		基礎作業学Ⅲ（分析）	15	後藤英子	専任
		義肢装具学	15	山形茂生、他	兼任
		卒業研究	15	後藤英子、他	専任
	作業療法管理学	作業療法管理学	15	佐藤浩二、他	専任・兼任
	作業療法評価学	身体機能評価学	30	矢野高正、他	専任
		疾患別評価学Ⅰ	15	後藤英子、他	専任
		精神機能評価学	15	吉岡恭介	専任
		疾患別評価学Ⅱ	15	後藤英子、他	専任
		発達評価学	15	後藤英子	専任
		職業関連活動評価学	15	矢野太亮、他	専任・兼任
	作業治療学	身体機能構造学	15	首藤小春	専任
		神経系疾患治療学	30	山形茂生、他	専任・兼任
		運動器疾患治療学	15	大野喜紀、他	兼任
		内部疾患治療学	15	真田康孝、他	兼任
		精神機能構造学Ⅰ	15	吉岡恭介	専任
		精神機能構造学Ⅱ	15	吉岡恭介	専任
		精神機能障害学	15	吉岡恭介	専任
		精神機能障害治療学Ⅰ	15	清永瞳	兼任
		精神機能障害治療学Ⅱ	15	山田帆真麗	兼任
		発達障害学	15	後藤英子	専任
		発達障害治療学Ⅰ	15	兒玉敬祐	兼任
		発達障害治療学Ⅱ	15	高森聖人、他	専任・兼任
		老年期障害学	15	首藤小春	専任
		老年期障害治療学Ⅰ	15	小合瀬健志、他	兼任
		老年期障害治療学Ⅱ	15	児玉隆典、他	兼任
		日常生活活動学	15	首藤小春	専任
		社会生活行為学	15	日隈武治、他	専任

専門分野	作業治療学	作業療法治療演習Ⅰ	15	池野和好、他	兼任
		作業療法治療演習Ⅱ	15	後藤英子、他	専任
	地域作業療法学	生活環境論	15	鈴木義弘、他	専任・兼任
		地域作業療法学 介護保険	15	木山千枝、他	専任・兼任
		地域作業療法学 障害福祉	15	高森聖人	兼任
		障がい者スポーツ論	15	池部純政	兼任
	臨床実習	作業療法体験実習	45	後藤英子、他	専任
		評価実習	45	後藤英子、他	専任
		基礎臨床実習	135	後藤英子、他	専任
		総合臨床実習	400	後藤英子、他	専任

【自己評価2-2】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	養成施設指導ガイドラインに基づき、教育課程を体系的に編成している。	3
	養成施設指導ガイドラインに基づき、教育課程をおおむね体系的に編成している。	2
	養成施設指導ガイドラインに基づいていない、または教育課程を体系的に編成していない。	1

【自己評価2-3】 当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	シラバスにすべての授業科目の授業計画、全体目標、成績評価基準・方法を明記している。	4
	シラバスにすべての授業科目の授業計画、全体目標、成績評価基準・方法をおおむね明記している。または、大半の授業科目の授業計画、全体目標、成績評価基準・方法を明記している。	3
	シラバスの記載が十分ではない。	2
	シラバスが作成されていない。	1

【自己評価3-1】 当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
	養成施設指導ガイドラインに従った診療参加型による臨床実習を実施している。	4
○	養成施設指導ガイドラインに従った診療参加型による臨床実習をおおむね実施している。	3
	養成施設指導ガイドラインに従った診療参加型による臨床実習を十分に実施していない。	2
	養成施設指導ガイドラインに従った診療参加型による臨床実習を実施していない。	1

【自己評価3-2】 当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	講義と関連の実習が十分に連動して実施されている。	4
	講義と関連の実習がおおむね連動して実施されている。	3
	講義と関連の実習が十分に連動して実施されていない。	2
	講義と関連の実習が連動して実施されていない。	1

●基本情報：臨床実習の見学又は実践する範囲とそれに関連する講義科目それぞれの開講時期を記入してください。

臨床実習の見学又は実践する範囲	開講時期	関連講義名	開講時期
医療機関、通所・訪問リハビリテーションにおけるリハビリテーションの見学（作業療法体験実習）	1年後期	作業療法概論	1 年前期
		地域リハビリテーション学	1 年前期
		身体機能評価学	1年後期
		精神機能評価学	1年後期
作業療法評価の実践（評価実習）	2年前期	地域リハビリテーション学	1 年前期
		精神機能構造学Ⅰ	1 年前期
		精神機能構造学Ⅱ	1年後期
		身体機能構造学	1年後期

		身体機能評価学	1年後期
		精神機能評価学	1年後期
		人間関係論	1年後期
		日常生活活動学	1 年後期
		発達評価学	1 年後期
		疾患別評価学演習Ⅰ	2年前期
作業療法評価の実践及び作業療法の視点による対象者の全体像の焦点化（基礎臨床実習）	2年後期	身体機能評価学	1年後期
		精神機能評価学	1年後期
		発達評価学	1年後期
		職業関連活動評価学	2年後期
		日常生活活動学	1年後期
		社会生活行為学	2年後期
		運動機能構造学	2年前期
		精神機能障害学	2年前期
		発達障害学	2年前期
		老年期障害学	2年前期
		基礎作業学Ⅲ（分析）	2年後期
		義肢装具学	2年後期
		老年期障害学	2年前期
		疾患別評価学演習Ⅱ	2年後期
作業療法評価から治療計画の立案を行い、対象者に対する作業療法やその効果判定の実施、多職種連携の体験（総合臨床実習）	3 年前期	神経系疾患治療学	2年前期
		運動器疾患治療学	2年後期
		内部疾患治療学	2年後期
		精神機能障害治療学Ⅰ	2年前期
		精神機能障害治療学Ⅱ	2年後期
		発達障害治療学Ⅰ	2年前期
		発達障害治療学Ⅱ	2年後期
		老年期障害治療学Ⅰ	2年前期
		老年期障害治療学Ⅱ	2年後期
		作業療法治療演習Ⅰ	2年後期
		作業療法治療演習Ⅱ	3年前期
		生活環境論	2年前期
		地域作業療法学 介護保険	2年前期
		地域作業療法学 障害福祉	2年前期
		作業療法管理学	3年前期
		地域リハビリテーション演習	2年前期

【自己評価3-3】 当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
	養成所指導ガイドラインで定める要件を満たす主たる実習施設で十分な臨床実習が実施されている。	3
	養成所指導ガイドラインで定める要件を満たす主たる実習施設で一部の臨床実習が実施されている。	2
○	養成所指導ガイドラインで定める要件を満たす主たる実習施設を置いていない。	1

【自己評価3-4】 当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	適正な臨床実習指導者の下で実習が実施されている。	4
	適正な教員の監督指導の下で実習がおおむね実施されている。	3
	適正な教員の監督指導の下で実習が十分に実施されていない。	2
	適正な教員の監督指導の下で実習が実施されていない。	1

【自己評価3-5】 当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	臨床実習におけるハラスメント防止のための体制があり、対応が十分である。	3
	臨床実習におけるハラスメント防止のための体制はあるが、対応が十分でない。	2
	臨床実習におけるハラスメント防止のための体制がなく、対応も不十分である。	1

【自己評価4-1】 当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	自己点検・評価の体制があり、改善に向けて機能している。	3
	自己点検・評価の体制はあるが、改善に向けて機能していない。	2
	自己点検・評価の体制がない。	1

●基本情報：自己点検・評価体制記入してください。

自己点検・評価組織名	職業実践専門課程（文科省）学校関係者評価委員会
委員名（委員長）	藤岡晋三
組織の開催頻度	1年に一度
組織の取り組み内容	・内部委員による自己点検評価
	・外部委員による第三者評価と提言
	・授業評価の分析、職員間での共有
	・職員研修会の企画・運営

自己点検・評価結果の公表	https://www.hiramatsu.ac.jp/reha/disclosure
--------------	---

【自己評価4-2】 当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	シラバス記載内容を改善する仕組みがあり、シラバスの記載内容の改善が行われている。	3
	シラバス記載内容を改善する仕組みはあるが、シラバスの記載内容の改善は十分ではない。	2
	シラバス記載内容を改善する仕組みがない。	1

●基本情報：シラバス記載内容を改善する仕組みについて記入してください。

該当する 仕組み	名称	教務担当者会議
	委員構成等	各科（理学・作業・言語）の教務主任
	改善の仕組みの実際	改善内容については、定例会議（校長、教育部長、各学科長）および職員会議を通して全職員に周知を図り、改善に努めている

【自己評価4-3】 自己点検・評価及び第三者評価の結果を改善に繋げるための取り組みを記入してください。

自己評価及び、学校関係者による第三者評価結果については、職員会議を経て各学科の取り組みとして活用している。また、その内容は、教育計画・結果報告（年次）として学校法人事務局に報告している。
